

| | | | | | | | |
|---------------------|--|--------------|-----------|------|-------|-----|------|
| 学科名 | 経営ビジネス学科／生物環境化学科 | | | | | | |
| 科目名 | 環境と生物 | | | | | | |
| 科目区分 | 人間形成科目 | 単位数 | 2単位 | 開講時期 | 2年次後期 | | |
| 必修・選択の別 | 選択 | | | | | | |
| 担当者 | 菅野憲一 | | | | | | |
| 授業の到達目標 (シラバスから) | <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構造、真核細胞のオルガネラの働きを例を挙げて説明できる。 ・遺伝情報のながれやATP合成などの生体内で起こっている反応を説明できる。 ・恒常性を維持するホルモンや身を守る免疫、外的となるウイルスを例示して説明できる。 ・食物網、生物濃縮、富栄養化、植物群落の分布や遷移、物質の循環を説明できる。 ・生物多様性、生態系サービス、侵略的外来種を説明できる。 | | | | | | |
| 日程と内容 | <p>9/15 第1回：導入講義、様々な生物。 9/26 第2回：生体分子の構造と機能。 9/29 第3回：真核細胞。 10/ 6 第4回：遺伝情報。 10/13 第5回：生命のエネルギー。 10/20 第6回：ホルモン。 10/24 第7回：環境の保全と賢明な利用 10/27 第8回：免疫系とウイルス。 11/10 第9回：第7回までのまとめ（小テストを含む） 11/17 第10回：植物群落、垂直分布、水平分布。 11/24 第11回：群落の遷移。 12/ 1 第12回：生態系、食物網、生物濃縮、富栄養化。 12/ 8 第13回：物質の循環。 12/22 第14回：生物多様性。 1/12 第15回：進化。 1/26 定期試験</p> | | | | | | |
| 成績評価基準 | 定期試験 | 60% | 実技 | | | | |
| | 臨時試験 | 40% | 部外評価 | | | | |
| | 報告書・レポート | | プレゼンテーション | | | | |
| | 課題 | | 計 | | | | 100% |
| | 演習 | | | | | | |
| 授業到達目標の達成度 | <p>ここ数年、150名程度の多くの学生が履修する講義となっています。到達目標に掲げられた項目は、臨時試験および定期試験において試験される。その結果、99%という高い合格率でありかつ、定期試験および臨時試験を受験した履修者の平均点は昨年度が85点であったのに対して、今年度は99点と高得点であったことから、到達目標を達成しているものと考えられる。</p> | | | | | | |
| 反省点 | <p>パワーポイントを用いた講義を充実し、前年度よりもさらに写真や資料をつけ加えた。また、後半の生態系などの回には生物多様性条約事務局や環境省などの資料を取り入れることで実社会で役立つよう工夫した。1101教室での開講ではあったものの、受講者の協力により、静粛な授業環境を維持できた。昨年度から開始したmoodleを利用した演習は改善の余地が残された。</p> | | | | | | |
| 来年度の計画 | <p>様々な関連するトピックスを盛り込んで講義のさらなる充実を行う。moodleを利用した演習を改善したい。</p> | | | | | | |
| 授業評価アンケートに対するコメント | <p>総合評価は8.4であった。次回も反省点を改善し、よりよい学習環境を目指します。</p> | | | | | | |
| 履修登録者数 | 117名 | 定期試験 受験者数 | 99名 | 合格者数 | 98名 | 合格率 | 99% |